

大峰奥駈縦走（大普賢岳～行仙岳）

【日程】 2025年5月2日～6日

【エリア】 大峰山脈

【形態】 無積雪縦走

【メンバー】 Ni、Ma、Mo、O、S、Na、他2名

【報告】 Mo

【費用】 和佐又ヒュッテ(素泊まり)¥6,000、弥山小屋(一泊二食)¥9,000、行仙小屋(素泊まり)¥2,000
※小仲坊（一泊二食）¥8,000

《ルート／タイム》

5/2 19:10 和佐又ヒュッテ

5/3 4:55 ロッジ出発 ⇒5:19 和佐又のコル ⇒6:08 笹ノ窟 ⇒7:45～53 普賢岳 ⇒9:50 七曜岳
⇒11:25～55 行者還小屋 ⇒12:00 天川辻 ⇒13:05 シナの木分岐 ⇒13:20 一ノ坪 ⇒13:42～55 奥駈道出合
⇒14:21 弁天の森 ⇒14:57～02 聖宝ノ宿跡 ⇒16:06 弥山小屋

5/4 6:55 弥山小屋発 ⇒7:27 八経ヶ岳 ⇒7:52 明星ヶ岳 ⇒8:53 五鉤峰 ⇒9:58 舟ノ坪 ⇒11:02 楊子の宿小屋
⇒12:00～30 休憩 ⇒12:40 仏生ヶ岳 ⇒13:25 孔雀のカクシ水 ⇒13:45 孔雀岳 ⇒13:50 孔雀観
⇒15:29 釈迦ヶ岳 16:32 深仙宿

5/5 5:54 深仙宿発 ⇒6:18～22 大日分岐 ⇒6:49 太古の辻 ⇒7:50 天狗山 ⇒8:15 奥森岳 ⇒8:32 嫁越峠
⇒8:53～9:03 天狗の稽古場 ⇒9:10 地藏岳 ⇒9:24 般若岳 ⇒9:49 滝川辻 ⇒10:45～53 涅槃岳
⇒11:15 証誠無漏岳 ⇒11:57 阿須迦利岳 ⇒12:20～13:10 持経の宿 ⇒14:00 平治宿 ⇒14:43 転法輪岳
⇒15:20 俱利伽羅岳 ⇒16:55 行仙岳 ⇒17:24 行仙宿山小屋

5/6 5:10 行仙宿山小屋出発 ⇒5:55 山彦補給路登山口

【報告書】

《5/2、5/3》

ゴールデンウィーク後半に大峰奥駈道の一部（普賢岳～行仙岳）の計画が Niさんから出されて参加した。これは昨年の北アルプスで知り合った九州の女性からのリクエストで、今回参加の Maさん Sさんから大峰の魅力をたっぷり吹き込まれ今回のリクエストとなったそうだ。5月2日に下山口の山彦補給路登山口に車1台をデポした後、和佐又ヒュッテに3人が前泊、翌朝1名が加わり4名で出発。天気は上々でまずは普賢岳に登り奥駈縦走路に入る。今日は弥山小屋までの長丁場ながら天気もよく順調に進む。行者還ノ宿で昼休憩を済ませてからはなだらかな笹原の尾根道を気持ちよく進む。奥駈道出合からは行者還トンネル西口から入山の登山者が増え、多くの人と行きかう。緩やかなアップダウンが続いたあと聖宝ノ宿跡からは一気に高度を上げて、午後4時過ぎに弥山小屋に着いた。GWのためかテント場も山小屋も賑わっていた。



真新しい和佐又ヒュッテの朝



天川辻を過ぎての尾根路

朝日を受けて和佐又のコルを目指す



弥山小屋へ続く急登

《5/4》

翌朝は天気予報とは裏腹に濃いガスと霧雨の中出発。雨の予報はないが八経ヶ岳も明星ヶ岳も展望が得られず先に進む。やがてガスも上がり始めて眺望も広がる。途中で今日、前鬼から入山の〇さんと無線でやり取りすると釈迦ヶ岳で我々の到着を待つとのこと。椋の鼻あたりでオオミネコザクラに癒されながら、釈迦ヶ岳への最後の登りに挑み



弥山小屋のテント場



朝、ガスの中八経ヶ岳を目指す



仏生ヶ岳中腹からの釈迦ヶ岳



オオミネコザクラ



釈迦ヶ岳で〇さんと合流



都津門

頂上で〇さんと無事合流、あとは深仙ノ宿を目指して下るのみ。やがて深仙小屋が見えてくるとすでに少なからぬテ

ントが並んでいる。強めの風の中、先に設営していた O さんおテントが強風で破損、4 人用テントに 5 人で寝ることになり、テントの設営組と水汲み組に分かれて準備していると、S さんチームが到着、さらに遅れて Na さんが到着して、テント 3 張りの総勢 8 名のチームとなった。



夕方の深仙ノ宿、多くのテントで賑わっている



太古の辻、これより南奥駈道

《5/5》

一晩中吹き続けた風は朝方になっても収まらないが、天気は快晴。あれだけあった他のテントはほとんどなくなっていた。今日は総勢 8 名のパーティ、大日岳のピークに立ち寄った後、今日の目的地の行仙宿小屋を目指す。太古の辻からはいよいよ南奥駈道、いくつもの笹原の中のピークを越える。持経の宿で水を補給、昼休憩を済ませる。平治の宿を越えてさらにいくつかのピークを過ぎ、いよいよラスボスの行仙岳の急登にかかる。行仙岳の頂上は無線中継局が立つ第十九摩である。後はここから約 30 分の下りで行仙小屋に到着、ここには 2 名の小屋番の方がおられて飲み物や食べ物もあり持経の宿で得られなかったコーラをゲット。夜はストーブで暖まりながら毛布にくるまって熟睡することができたが、夜の 11 時頃からついに雨が降り出した。



天狗の稽古場でのんびり休憩



行仙岳への登り

《5/6》

天気予報では翌日の 9 時ごろからの降雨がずいぶん早まったようだ。翌早朝、先発 5 名が雨の中を出発、今日は山彦補給路登山口まで約 45 分の下りで 6 時前に登山口に下山した。こののち前鬼にて 3 名が下車したのち、振り返りて残りの 3 名をピックアップに戻り焼き肉の馬酔木に 12 時に集合し無事下山の打ち上げを行い解散した。

追記:O

5/3に前鬼・小仲坊での宿泊をさせていただく。宿泊者は宿坊まで車で進入できるようだが、トレーニングを兼ねてチェーンが掛かっている手前30分ほどから歩く。新緑に囲まれ心地よい。

はじめての小仲坊での宿泊となったが、第61代目を迎える五鬼助ご夫妻のおもてなしのもと、一晚を過ごさせていただいた。民間の家系で60代以上も連綿と紡がれていることにはただ敬意を表したい。同夜は親戚の皆さんも大勢お見えになっていた。

5/4

翌日は朝5時から朝食の提供。ご飯を一杯詰めたふりかけ弁当を頂戴し、5時40分頃からぼちぼちと行動を開始する。

今回は縦走組が北部から南下してくるところを深仙宿で合流する手はずだ。しかし、時間も十分にあるため、経路に係る靡（なびき）をひとつずつ丁寧に訪問していく。数年前に90周年事業として全山縦走を実施した際には太古の辻～前鬼の間は縦走路ではないため、靡を訪問できていない。

この間、小仲坊から太古の辻までは次の靡となる。29靡・前鬼山、30靡・千草岳（登山道から見えるものの、やや離れている）、31靡・小池宿（登山ルートから大きく離れているため今回はパス）、34靡・千手岳（バリエーションとまではいかないが登山道から獣道をつたい片道20分程度は掛かる）。

その後、35靡の大日岳へ登頂してから深仙宿でテントを張る。天気は回復傾向にあったが、相当の強風。おかげで幕営時にポールが裂けてしまい、被せたフライも風の作用で切り裂かれてしまい、使い物にならなくなってしまった。

テント設営に難渋したのち、メンバーを出迎えるために釈迦ヶ岳へ。行程が遅れているのか3時間も頂上付近で時間を過ごしてしまう。幕営地に戻ってきた後は、水の確保だ。香水はチョロチョロではあるもの確実に染み出している。しかし、連休中ともあり水汲みを必要とするパーティ待ちで気温も低くなっており寒い待ち時間を過ごす。テントが使えなくなったため山岳会のエスパースに5名で文字のごとく川の字で強風に煽られながら就寝する。

5/5～5/6

報告の本編を参照されたい。5/5の行動時間まではお天気に恵まれ、素晴らしい南奥縦走路を歩かせていただいた。計画をいただいたリーダーはじめ、一緒に歩かせていただいた（飛び入り参加のNさんにはびっくりしたが）仲間に感謝したい。